

D部門論文委員会意見交換会

2022年9月1日（木）

12時30分～13時20分

上智大学 6-410

【Web会議（ZOOM）予約情報】

トピック名 : D部門大会論文委員意見交換会

日時 : 2022年9月1日（木）12:00～（1時間使用可）

参加用URL : <https://us06web.zoom.us/j/85150993803>

ミーティングID : 851 5099 3803

パスワード : 通知メールご参照ください！

1

議事次第

1. 論文委員会の体制紹介・編修長・英文編修長あいさつ

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

2. 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

3. 査読マニュアルについて

星和文誌編修長

4. 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

および戦略委員会の活動報告

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

5. 電子査読システムの運用状況について

佐藤和文誌編修長補佐

6. 論文委員意見に対する回答

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

赤津 D3主査

7. 意見交換 (13:20終了)

産業応用部門 和文論文誌 編修長
星 伸一 （東京理科大学）

英文論文誌 編修長
横山 智紀 （東京電機大学）

最近の和文論文誌委員会・ 英文論文誌委員会の活動について

産業応用部門 和文論文誌 編修長

星 伸一（東京理科大学）

英文論文誌 編修長

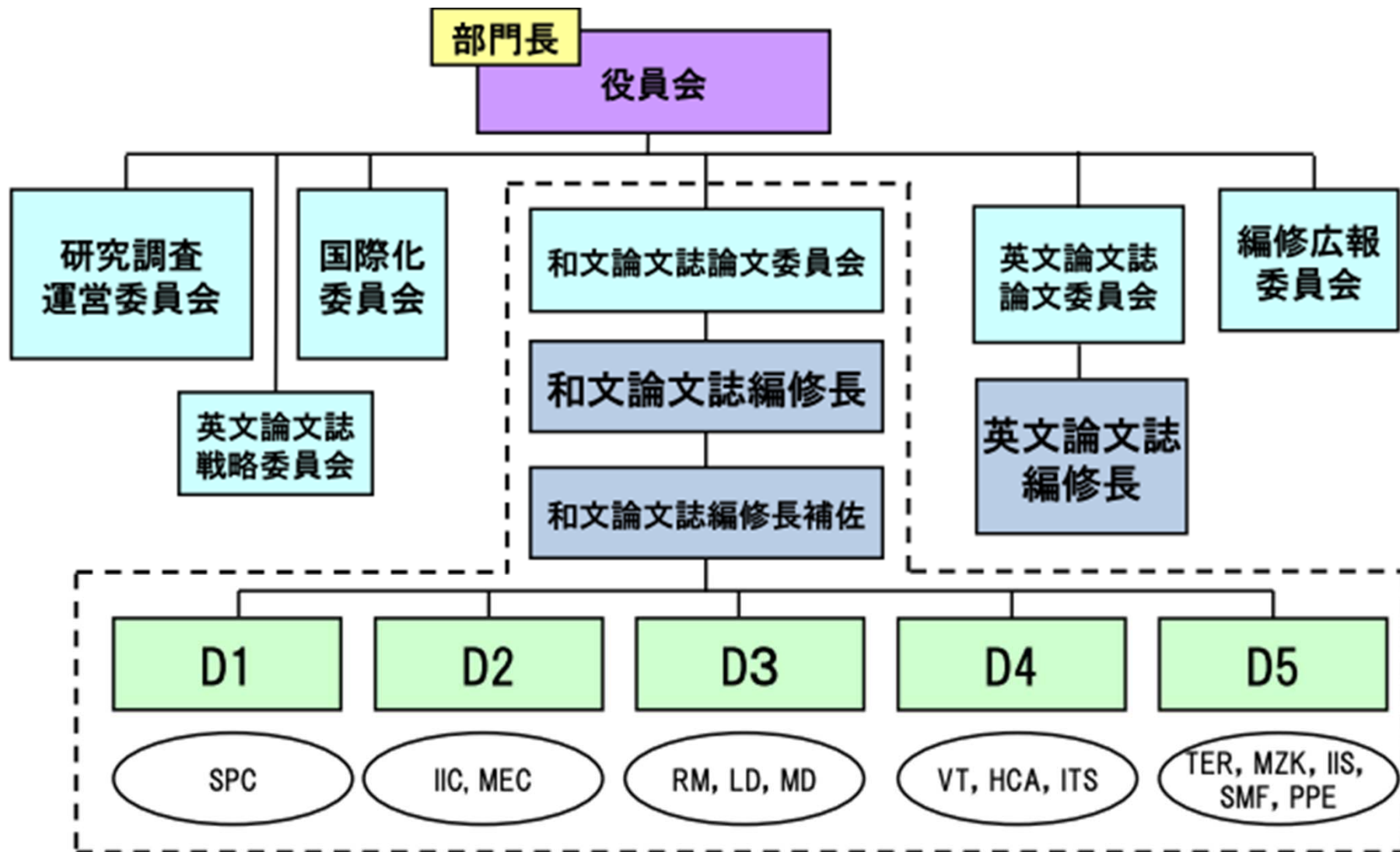
横山 智紀（東京電機大学）

★ねらい

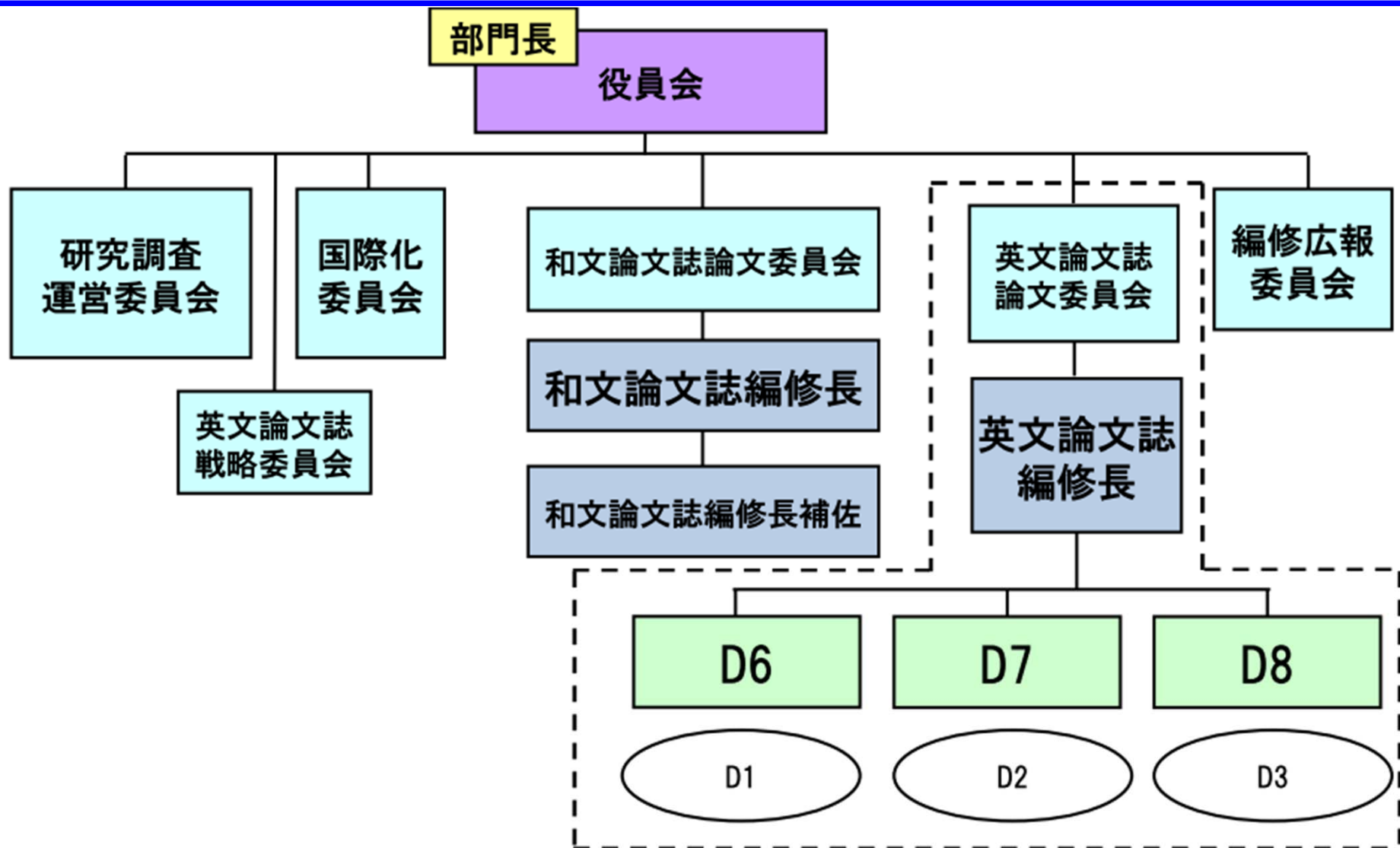
- D部門としてのグローバル化
- 国際的な情報発信の促進
- 英文論文誌のクオリティ向上(SCI登録)

「英文論文誌戦略委員会」で各種対策を実施

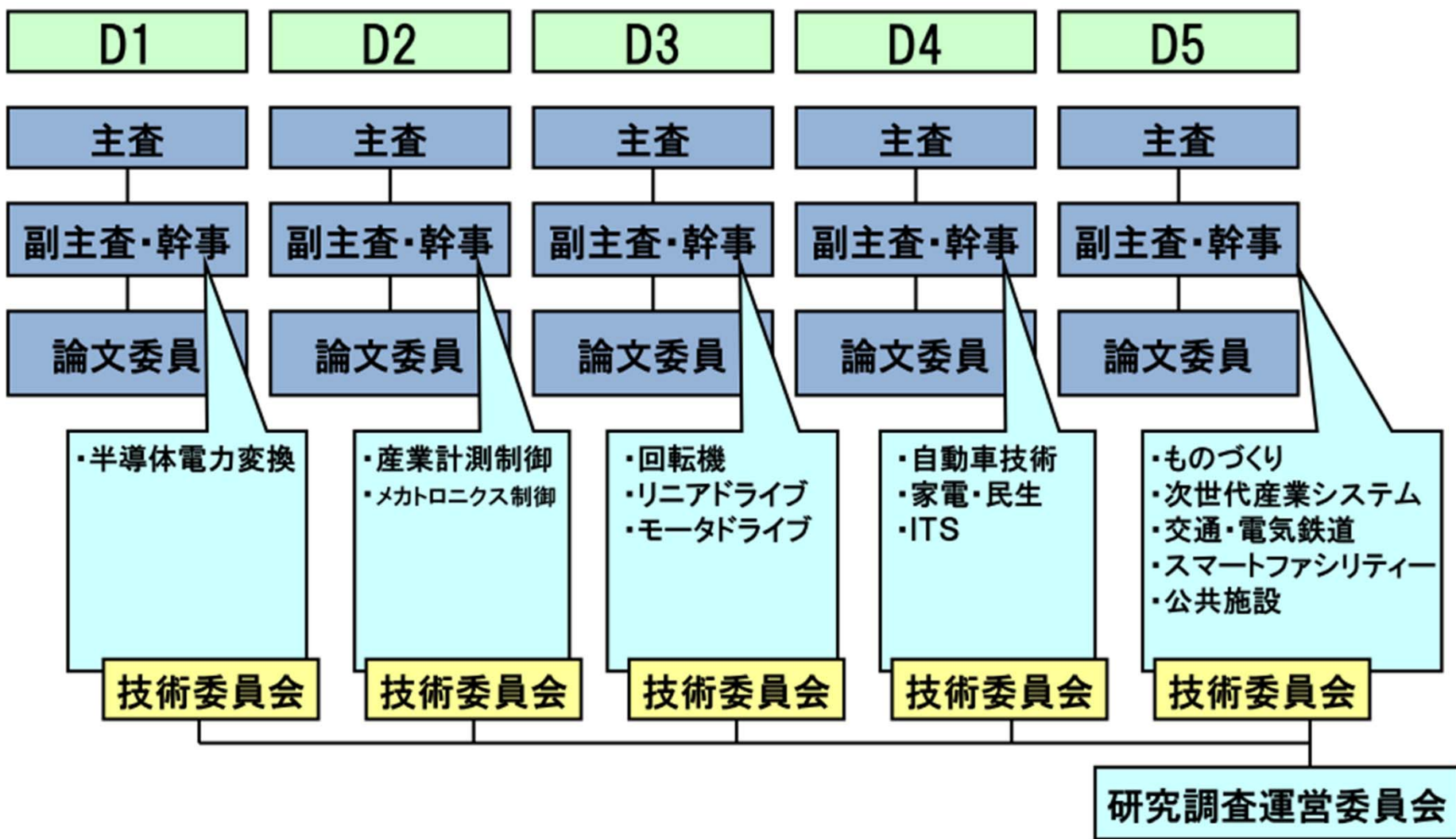
5 D部門における論文委員会（和文論文誌）



6 D部門における論文委員会（英文論文誌）

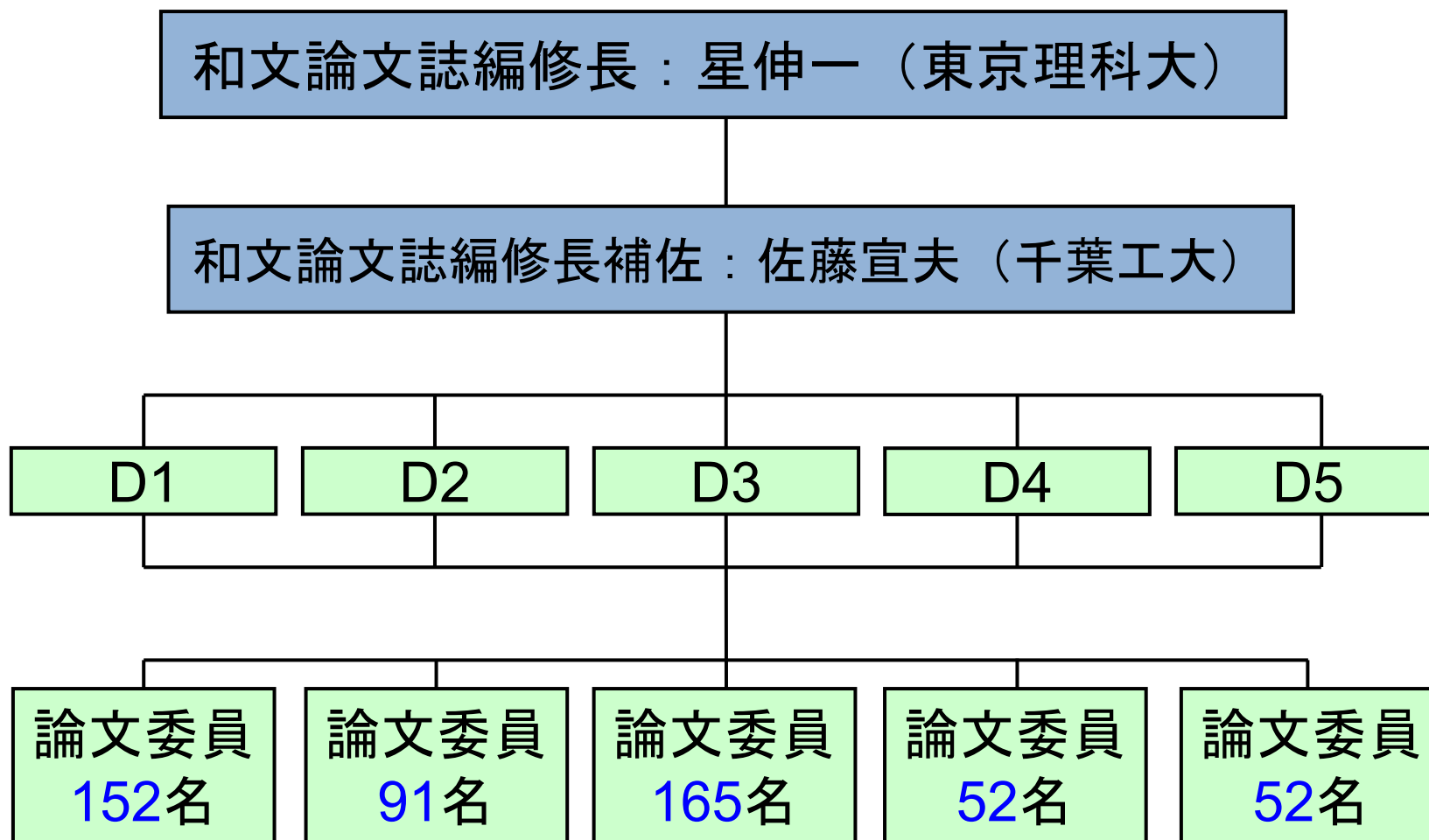


和文論文誌論文委員会の組織



8

和文論文誌論文委員会の構成



9 2022年度和文論文誌 論文委員会幹事等

| D1 | 役職 | 氏名 | 所属 |
|----|-----|--------|----------------|
| | 主査 | 藤井 幹介 | 富士電機(株) |
| | 副主査 | 三島 智和 | 神戸大学 |
| | 幹事 | 児山 裕史 | 東芝インフラシステムズ(株) |
| | 〃 | 長谷川 一徳 | 九州工業大学 |
| | 〃 | 萩原 誠 | 東京工業大学 |

| D3 | 役職 | 氏名 | 所属 |
|----|-------|-----------|---------|
| | 主査 | 赤津 観 | 横浜国立大学 |
| | 副主査 | 鈴木 憲吏 | 東京都市大学 |
| | 幹事 | 長谷川 勝 | 中部大学 |
| | 〃 | 中村 健二 | 東北大学 |
| | 〃 | 井上 征則 | 大阪府立大学 |
| | 〃 | 木村 守 | 日立金属(株) |
| | 〃 | 上野 哲 | 立命館大学 |
| 〃 | 浅野 能成 | ダイキン工業(株) | |

| D2 | 役職 | 氏名 | 所属 |
|----|-----|-------|---------|
| | 主査 | 関 健太 | 名古屋工業大学 |
| | 副主査 | 元井 直樹 | 神戸大学 |
| | 幹事 | 境野 翔 | 筑波大学 |
| | 〃 | 吉浦 泰史 | (株)安川電機 |

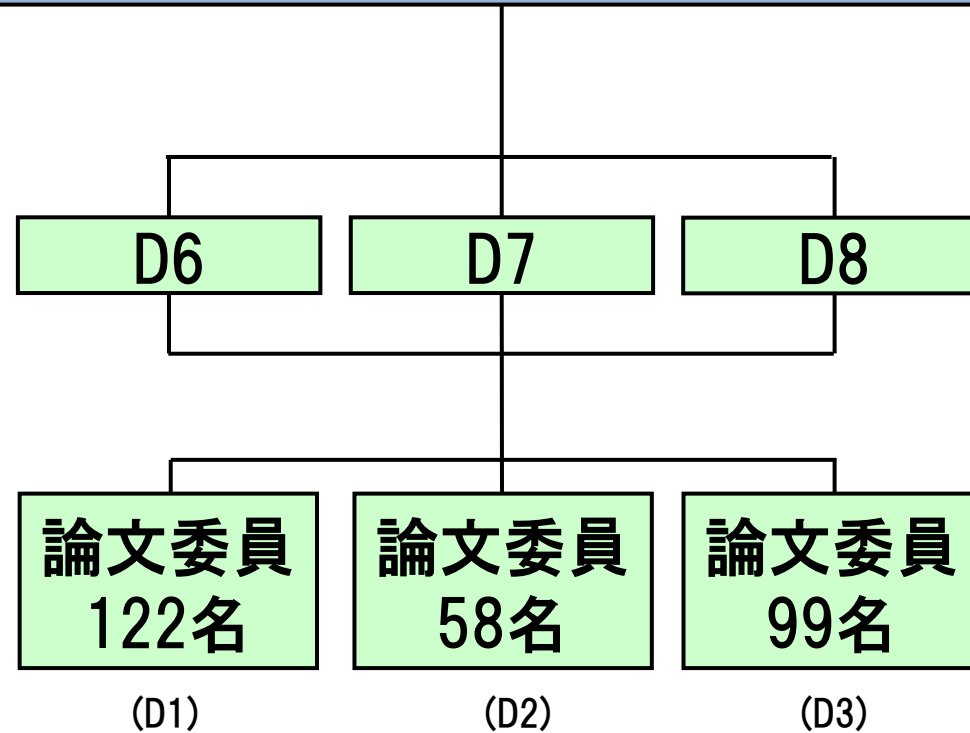
| D4 | 役職 | 氏名 | 所属 |
|----|-----|--------|---------------------------|
| | 主査 | 山田 親稔 | 沖縄工業高等専門学校 |
| | 副主査 | 小坂 大吾 | 職業能力開発総合大 |
| | 幹事 | 居村 岳広 | 東京理科大学 |
| | 〃 | 井上 馨 | 同志社大学 |
| | 〃 | 岩岡 浩一郎 | パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) |

| D5 | 役職 | 氏名 | 所属 |
|----|-----|--------|----------------|
| | 主査 | 山田 親稔 | 沖縄工業高等専門学校 |
| | 副主査 | 小坂 大吾 | 職業能力開発総合大 |
| | 幹事 | 横川 勝也 | 東芝インフラシステムズ(株) |
| | 〃 | 西村 和則 | 広島工業大学 |
| | 〃 | 渡邊 翔一郎 | 東京電機大学 |
| | 〃 | 安里 健太郎 | 沖縄工業高等専門学校 |

10

英文論文誌論文委員会の構成

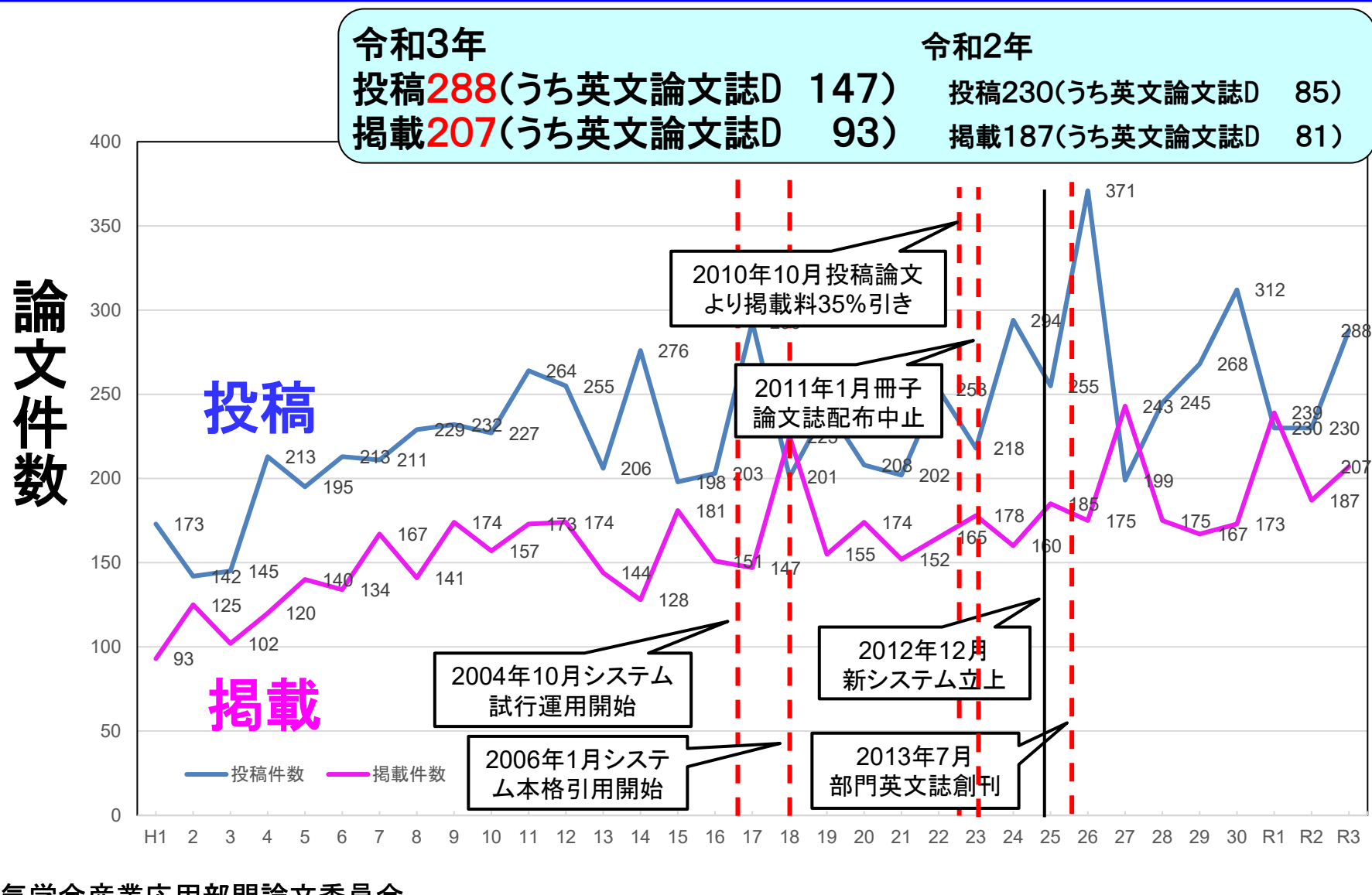
英文論文誌編修長:横山智紀(東京電機大学)



| 英文論文誌編修長 横山智紀（東京電機大学） | | | | | |
|---|--------|-------------|--|-------|--------|
| D6 Power Electronics and Its Applications | | | D7 Motion Control, Robotics, Sensing, and their Applications | | |
| 役職 | 氏名 | 所属 | 役職 | 氏名 | 所属 |
| 主査 | 和田 圭二 | 東京都立大学 | 主査 | 石川 潤 | 東京電機大学 |
| 副主査 | 芳賀 仁 | 長岡技術科学大学 | 副主査 | 藤本 康孝 | 横浜国立大学 |
| 幹事 | 小原 秀嶺 | 横浜国立大学 | 幹事 | 下野 誠通 | 横浜国立大学 |
| 〃 | 名取 賢二 | 千葉大学 | 〃 | 藤本 博志 | 東京大学 |
| 〃 | 浜崎 真一 | 長崎大学 | 〃 | 伊藤和晃 | 岐阜大学 |
| 〃 | 梅谷和弘 | 東北大学 | 〃 | 道木加絵 | 愛知工業大学 |
| D8 Electric Machine, Motor Drive and their Applications | | | | | |
| 役職 | 氏名 | 所属 | | | |
| 主査 | 小坂 卓 | 名古屋工業大学 | | | |
| 副主査 | 近藤 圭一郎 | 早稲田大学 | | | |
| 幹事 | 朝間 淳一 | 静岡大学 | | | |
| 〃 | 鳥羽 章夫 | 富士電機（株） | | | |
| 〃 | 山本 修 | 職業能力開発総合大学校 | | | |

12

D部門 論文投稿・掲載件数の推移



特集号の企画数

| 年 | 企画数 | 投稿数 |
|-------|-----|---------------|
| 2022年 | 3 | 172 【08/10時点】 |
| 2021年 | 4 | 179 |
| 2020年 | 2 | 229 |
| 2019年 | 7 | 239 |
| 平成30年 | 4 | 312 |
| 平成29年 | 4 | 268 |
| 平成28年 | 3 | 245 |
| 平成27年 | 3 | 199 |
| 平成26年 | 9 | 371 |
| 平成25年 | 6 | 255 |

- グローバル化⇒D部門の高度な技術の世界へ。情報発信は英語で！（共通英文論文誌：scopeが広すぎる）
- IEEE (IEEE explore) との差別化
 - ①電気学会の査読基準（有用性、オリジナリティ、新規性）、
 - ②きめ細かい査読プロセス
 - ③有用性のある論文を掲載する

現状：Open access。海外著者は投稿料実質無料

一流論文誌として認められる（海外から読まれる論文誌）

となるためには：

Web of ScienceのSCIE登録（インパクトファクター）を目指す必要がある。

- **SCIE** (Science Citation Index Expand)
 - Clarivate Analytics社（2016年Thomson Reuter社から分離）の学術雑誌データベース
- **サイテーション・インデックス（引用索引）による論文誌評価**

英文論文誌戦略委員会での各種取り組み

| JIAのSCI登録のためのアクションプランの担当者と経過説明 2020-8-26更新⇒21-1-18見直し⇒3-16 D部門英文誌戦略委員会委員長案 ⇒2021-5-18 ⇒7-27⇒10-5⇒12-8⇒22-3-7 | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|---|---------------------|------------------|-----------|--------|--------|-------------------|--------------|---------|-----------|
| タスク | 主担当者(敬称略) | 実施内容と経過説明(敬称略、○印が主担当) | 最終数値目標 | 情報共有かアクションか | インセンティブ予算 | | | 部門として、海外論文無料化の実施 | 進捗状況チェック | | |
| | | | | | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | | 21年3月 | 21年12月 | 22年3月 |
| A: JIA論文を3件程度引用していただくように依頼のメールを発信(2020.7以降) | 赤津、小坂、桂、集計(桂) | パワエレ(赤津:実行部隊は、星研(ICPE,EPE)と伊東研(ECCE)の若手教員)、マシーン(小坂:実行部隊は、小坂研(ICEMS)の若手教員)、モーション(大石:実行部隊は、大石研(IEGON)の若手教員):全体のスケジュール管理:桂幹事(時期を畫いた表を作成して各分野担当者に送付し、 実施状況および仮のIFを適宜報告する) | IF=3.0以上 | アクション | 0 | 0 | 0 | | 1.2(桂先生推定) | チェック | チェック |
| B: クラリベート社と連携し、JIA引用著者にメール発信、関連研究者にJIAの紹介メールを発信 | 桂幹事、横山編集長 | (1) JIA論文の引用論文著者に、引用されたことをメールで通知。 (2) 分野が関連する論文誌(IEEE Trans.PE/IE/IA, JPE)の論文著者(海外研究者、日本人除く)に対して、JIAの紹介メールを発信。(2項とも2018年度に実施実績あり)⇒ 編集長が状況報告して情報共有 | 引用数増加に貢献。 | アクション | 200 | 200 | 200 | | done | たたき台あり | たたき台あり |
| C: 招待論文企画 | 和田、小坂、柴田 | 招待論文(年2件程度)アレンジ計画担当:候補者:パワエレ:○和田(新任)、伊東、マシーン:○小坂、近藤、モーション:○柴田、内村、藤本康孝(Oboe先生)案を適時本委員会に提案する⇒情報共有 | 年3件程度 | アクション | 0 | 0 | 0 | 無料化(定期的には30-45) | ? | ? | Cool Jへ委託 |
| D-1: 日本で開催された国際会議の招待講演者にJIA論文招待論文としての投稿を依頼する | 藤本博志、伊東、赤津 | 国際会議の招待講演者に、招待論文の投稿を依頼(SAMCON,IPEC,ICEMS)するトリガ役:担当者: SAMCON:藤本博志(年2件実施中)、IPEC:○伊東、清水、ICEMS:赤津(本委員会に報告する。) | 年3件程度 | 情報共有 | 0 | 0 | 0 | 無料化(定期的には30-45) | ? | ? | Cool Jへ委託 |
| D-2: 日本で開催された国際会議で論文賞を受賞した著者にJIA招待論文としての投稿を依頼する | 藤本博志、伊東、赤津 | SAMCON, IPEC, ICEMSなどの国際会議で論文賞を受賞するなど質の高い論文を“Invited paper”として、掲載料は免除して、投稿を促す(本委員会に報告する)⇒情報共有 | 年3件程度 | 情報共有 | 0 | 0 | 0 | 無料化(定期的には30-45) | ? | ? | Cool Jへ委託 |
| D-3: JIAの論文を採択後SAMCONで発表する。(IPEC2022での試行) | 藤本博 | JIAで掲載予定または掲載済み論文をSAMCONで発表してその内容を広く公表する。→先に論文誌に投稿する傾向を先取りし、JIA論文の投稿数を増やす(特に、海外論文増加にも寄与)。 | SAMCONは2021年から試行 | 情報共有 | | | | | 2022.3から実施中 | 状況は? | Cool Jへ委託 |
| E: 日本で開催された国際会議講演者にJIAへの投稿を促すことをその会議の論文委員長に依頼する | 元井、芳賀、近藤 | 国際会議の講演者に、JIAへの投稿を依頼(SAMCON,IPEC,ICEMS)することをその国際会議の論文委員長に依頼して、効果を確認する。(本委員会に報告する)担当者: SAMCON桂幹事、○元井、IPEC和田(新任)、○芳賀、ICEMS○近藤、小坂⇒情報共有(注)2重投稿(電気学会主催国際会議⇒ジャーナル)、剽窃に関しては、解決のめどあり(編集長・部門長) | 年平均で10件程度 | 情報共有 | 0 | 0 | 0 | 特集号(海外、無料、国内、半額) | ICEMSの結果⇒52件 | IPEC2 | 再確認 |
| F: 国際共著論文を増やす対策を企画する | 村上、星⇒河村 | 河村がテコ入れ⇒複数の案を検討して本委員会に提案スミ(投稿料を補助するなど。)⇒提案をチェック⇒2021年度に試行(?)⇒①研究会(SPG,MD,RM)の招待講演をInvited paperへ、②JIA論文の紹介ビデオのサイトを立ち上げる。 | 年7件程度 | アクション | 0 | 0 | 35 | | 今回は、チェック | 今回はチェック | 今回はチェック |
| G: 査読期間を短縮するインセンティブの運用を企画する | 河村、小原 | 査読期間の短い査読者にインセンティブ付与: 10月9日本部理事会で承認。幹事団はなし。2019年度後半に試行(10月11日から1月10日まで)⇒ 定常実施中(幹事団へのインセンティブと和文誌への対応が課題) | 査読期間4か月 | アクション→done | 20 | 60 | 60 | | 実施中 | 実施中 | 状況報告 |
| H: スペシャルイシュー(特集号)を企画する。 | 伊東、赤津、桂 | ○伊東、赤津、桂主編集長(特集号が予定されているゲストエディタからの具体案を編集長が調整・検討して、本委員会に報告⇒ゲストエディタは3年間程度は同じ人は指名しない⇒情報共有(ICEMS,IPECを計画すべし) | 年8件程度 | 情報共有 | 0 | 0 | 0 | ICOPE19-done | ICEMS? IPEC? | IPEC2 | ? |
| I: early access の実現 | 編集長(横山、大石) | 編集会、理事会で承認を得て、J-Stageと交渉した結果、実現可能となった。(ただし、例えば2020年の論文を2020年に引用してもIFにはカウントされないもので、注意) | IFの向上(開始: 2020年10月) | アクション→to be done | | | | | スミ | スミ | スミ |
| J: 日本の最新技術を紹介、IEEEとの差別化、引用数を増大、日本語サーベイ論文原稿→翻訳する。(JIA Cool JAPAN?) | 近藤・河村・村上 | (1) WG(近藤)を中心に具体策を計画、①技術委員長に依頼して、調査専門委員会の内容が海外から興味を持っていただけそうなものを探す。→調査専門委員長に日本語で執筆依頼。部門長への依頼(先送り)(2) Cool Japan invited paper、(3) Invited survey paper⇒ 進行中 | IFが1以上向上するように! | アクション | | 20 | 100 | 翻訳料(5編)2020年度準備開始 | 実行中 | 実行中 | 実行中 |
| K: JIAの採択論文は、JIA論文を2件程度引用する。現状の自己引用率(10%)→50%へ | 横山、河村、 | 現状のJIAの自己引用率は10%だが、将来JIAがSCI登録されたとき、自己引用率が現状の10%よりも高いと、その時点でIFは向上する。目標: 自己引用率50%。→どのようにして実施するかは、次回以降、提案する。⇒ 当分の間、先送りとする。 | 将来のIFに寄与 | アクション | | | | | 未 | 先送り | 先送り |
| L: 国外からのAEを増やす(21-5-18頭出し) | 河村、小原、横山 | AEに海外の方を論文委員会主査会に入れることにより、その周りの研究者の論文をJIAに誘導できないか?(メリット、デメリット(主査会は英語?)の分析から始める) | 海外論文を増やす | アクション | | | | | 未 | 先送り | 先送り |
| 最終目標 | | IFが2→3以上、海外引用比率20%、国際共著論文30% | | | 220 | 280 | 395 | 無料化分予算(135-195) | | 1.2? | |

(注1)ここに名前が挙がっていない関連分野の先生にも趣旨を説明して、協力を依頼して、タスクを分担してアクションを遂行してください。

(注2) D部門の国際化の方針として、JIAへの海外からの投稿論文は、その投稿料は無料化する。

(注3) クラリベート・アナリシス社からの情報(2020-7-21現在)、仮のIF: 1.033(2018), 2.14(2018), 2.3(2019), 0.96(仮)(2020), Q2最上位: 3.50、最下位2.2、分子にJIA論文引用も含む

新規アクション提案: ①Task A: 3件(→2件)程度の引用を依頼、②Task F: 河村テコ入れ(アイデアを実施中)

新規情報提供: Task D-3: ジャーナル論文→国際会議で発表

□頭報告も可

進捗状況のチェック欄の追加

- JIA論文引用の促進
- Early access の実現(2020/10~)
- 著名研究者の招待論文の促進
- 国際共著論文の促進
- 日本開催の国際会議論文をJIAへ誘導
- 査読促進賞（定常運用）(査読期間短縮)
- JIA Cool Japan論文シリーズの開始
- JIA Finderの運用開始
- クラリベイト社による広報メール発信
- SCI登録の審査（**ELSEVIERのScopusとEIに登録、Web of ScienceのESCIに登録済み。**（登録の俎上に常に乗っている状態））

最新ニュース!! (2022.7.26)

クラリベイトアナリティクス社から、2023年6月に更新されるジャーナルインパクトファクター(JIF)から、ESCI(Emerging Sources Citation Index)のジャーナルに対してJIFを付与することになるというニュースリリースが
出ました。

電気学会D部門英文論文誌(JIA)はすでにESCIに登録されているジャーナルですので、今後もESCIに登録の状態が維持されれば、**2023年6月の更新において、ジャーナルインパクトファクターが付与される**ことになる予定であることを意味します。



NEWS

JULY 27, 2022

< 1 MINUTE READ

クラリベイトが**2023**年の**Journal Citation Reports™**の更新予定を発表、芸術・人文科学分野を含むすべての**Web of Science Core Collection**ジャーナルにジャーナル・インパクトファクターを付与

これにより、D部門英文論文誌がインパクトファクターを取れる目処が経ちました
これまでの会員の皆様のご協力に感謝いたします

引き続きJIAの質の向上にご協力をよろしくお願ひします。

D部門英文論文誌(JIA)の現状

- SCIE(Web of Science)登録条件
 1. 1年間に peer-reviewed journal が最低20件
→OK
 2. 定期刊行物のJournalが毎号成立している.
→OK
 3. 仮IFの計算値（推定値）が高い必要がある(基準は年々厳しくなっている)
→ 2021年の仮 I F の推測値=1.515
(ちなみに、共通英文論文誌TEED= 0.923)
 4. 論文誌としての国際性（著者・研究機関）（海外著者との共著でも可）

これらの課題に対して英文論文誌戦略委員会で複数の対策を鋭意努力中！
引き続き、D部門会員全員の協力が必要！

2021年のJIAの仮のIF値は1.515です。
これに対し、SCIE登録誌のQ1～Q3の下限值です。
Q1: 4.816
Q2: 2.701
Q3: 1.600

D部門会員全員の協力とは:

D部門英文論文誌の掲載論文を、IFの有る学術雑誌や国際会議論文を執筆される際の参考文献として、積極的な引用をお願いいたします。(過去二年の論文引用数がインパクトファクターの計算に使われます。対象の論文を中心に引用をお願いいたします。)

特に、IEEEなどの論文誌論文や国際会議論文の執筆の際に、D部門英文論文誌の論文を引用をお願いいたします。

Open Access Journalですので、国内外の研究者・技術者に積極的に紹介して、D部門英文論文誌の認知度をあげていただきたい。

D部門英文論文誌の被引用数が上がると、自分の学術論文の被引用数も上がることとなります。

英文論文誌戦略委員会の取り組みとして、査読促進賞の実施により、80名程度の受賞者がおられて、査読期間も短縮されています。

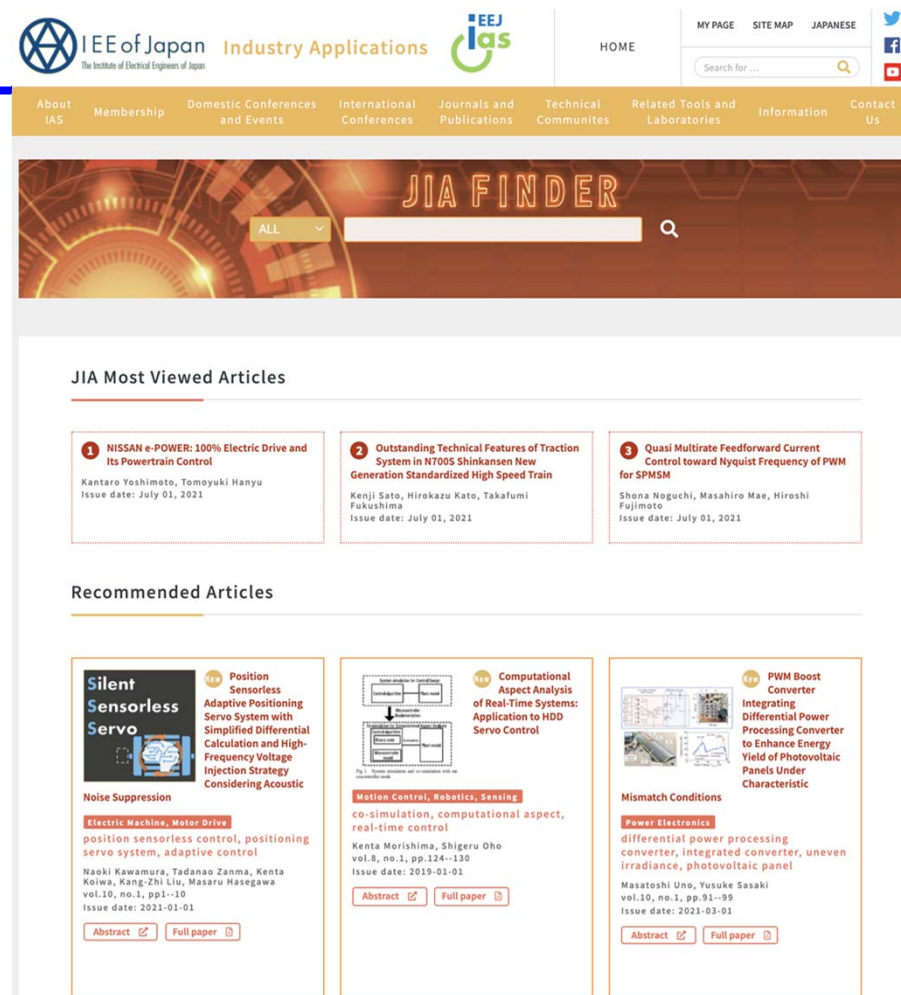
20 JIA Finderの運用開始

<https://www.iee.jp/en-ias/spa/>

JIAの論文の検索エンジン

著者、キーワード、volume, yearでの検索が可能ですので、活用ください

JIAのHPからリンクがあります



Cool Japan ~ JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.



Dear Dr. Urata,

It is our pleasure to inform you that following inspiring and foresighted research paper from IEEJ Journal of Industry Applications has been published. We have sent to you this email because you are an author of the article indexed in Web of Science and believe this research may be of your interest.

Cool Japan - JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.



Author: Kenji Sato, Hirokazu Kato, Takafumi Fukushima

"Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejia.20012560

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/10/4/10_20012560/article-char/en



Author: Kantaro Yoshimoto, Tomoyuki Hanyu

"NISSAN e-POWER: 100% Electric Drive and Its Powertrain Control"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and A lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejia.20013024

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/10/4/10_20013024/article-char/en



Author: Masaki Okamura,

"The Evolution of Electric Components in Prius"

This paper presents the technology for the evolution of a hybrid electric traction system for Toyota launched the first massproduced hybrid electric vehicle, the Prius.

DOI: 10.1541/ieejia.21007126

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/advpub/0/advpub_21007126/article-char/en

JIA FINDERのページ :
Most viewed articles
Recommended articles



JIA Most Viewed Articles

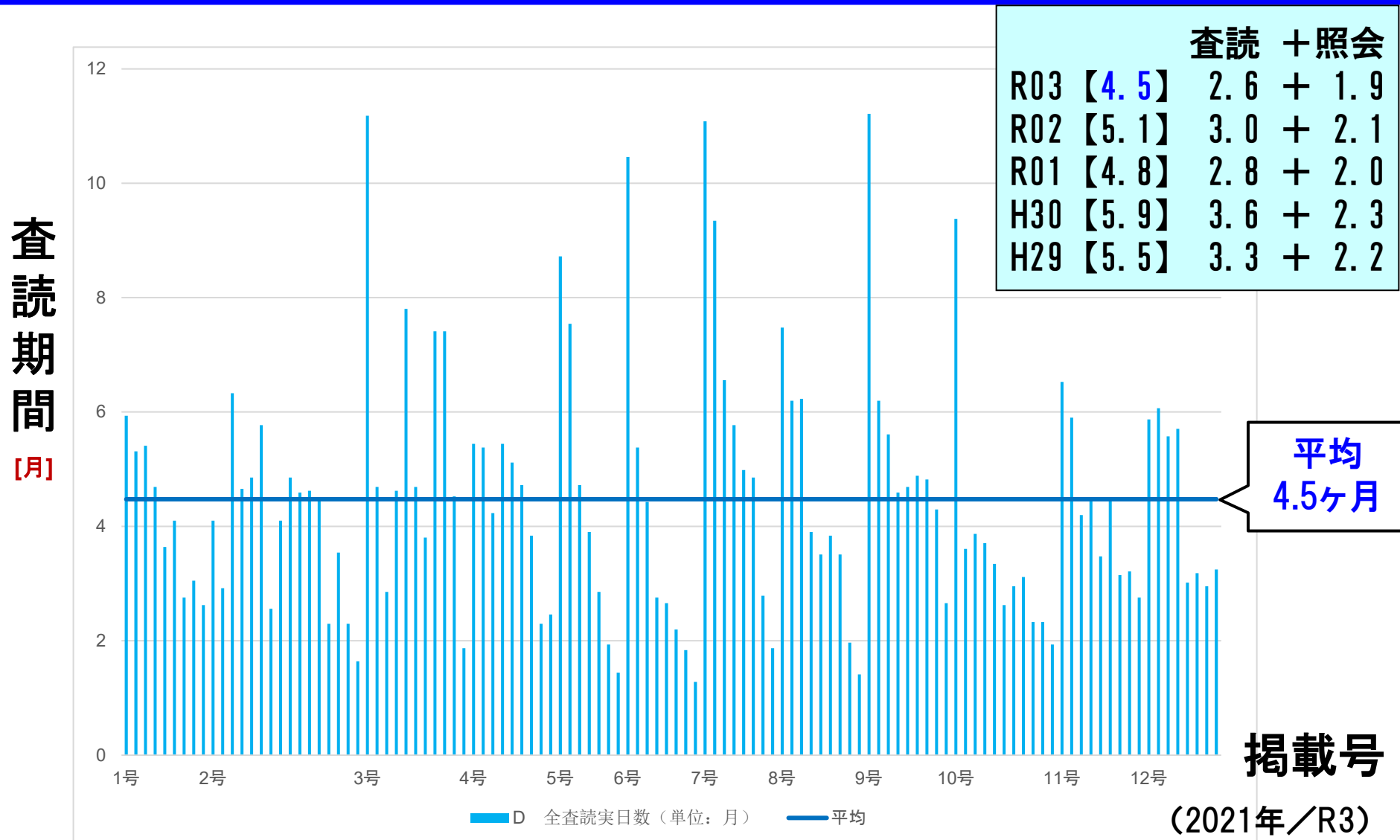
- 1 Contact Force Estimation and Sensorless Force Control in Piezoelectric Bending Actuators
- 2 A 12kW Three-phase Wireless Power Transfer System in Compliance with CISPR 11 and ICNIRP 2010
- 3 Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train

Recommended Articles

Grid of recommended articles including titles like 'Silent Sensorless Servo', 'A 12kW Three-phase Wireless Power Transfer System', 'PWM Boost Converter', 'Position Sensorless Adaptive Positioning Servo System', 'Computational Aspect Analysis of Real-Time Systems', 'Pulse Width Modulation', 'Noise Suppression', 'Electric Machine, Motor Drive', 'Mismatch Conditions', 'High-speed Core Loss Base Data Collection', 'Time-Variant Haptic Simulator', and 'Distributed Winding IPM Motor'.

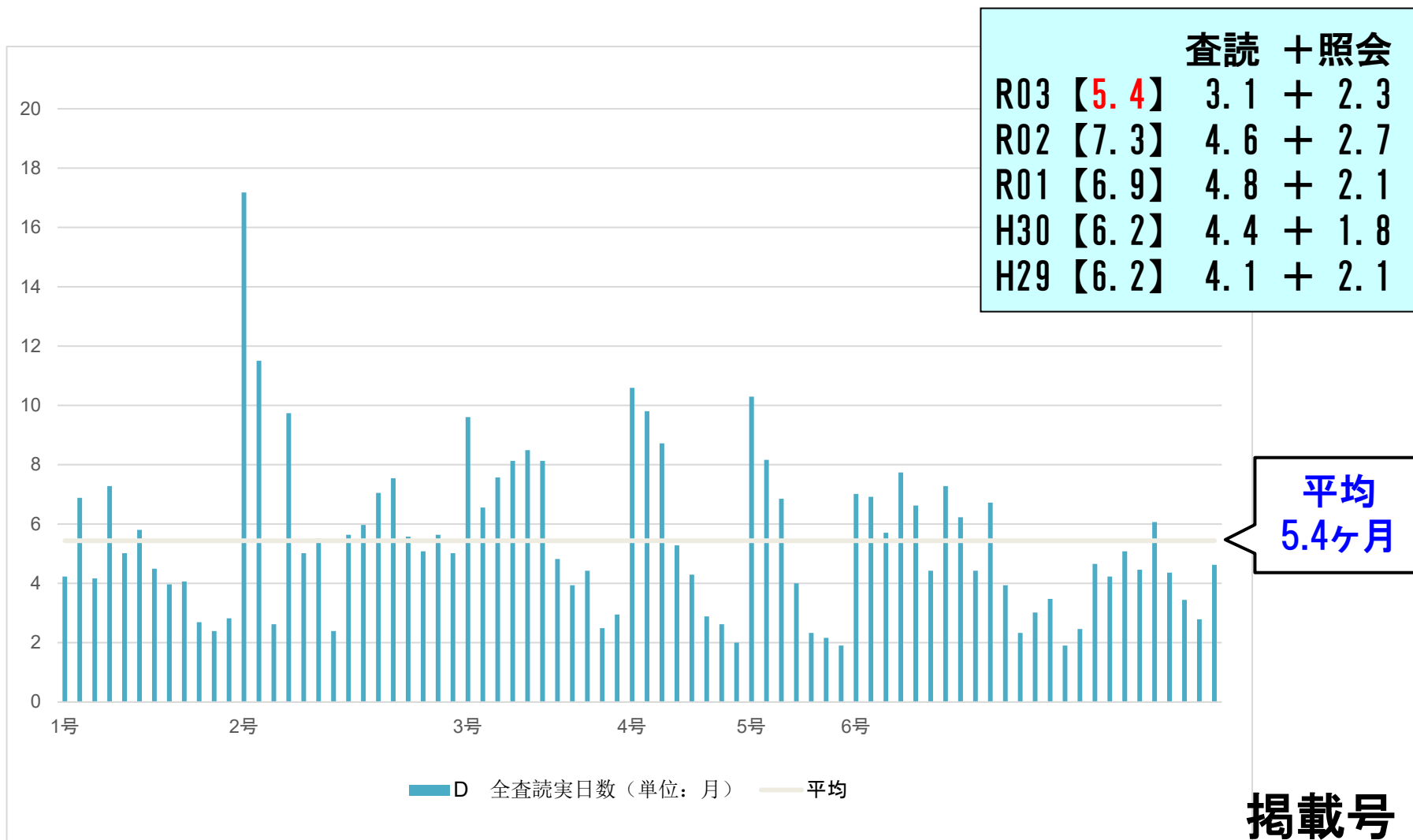
和文論文誌D（論文）

論文掲載判定までの所要月数

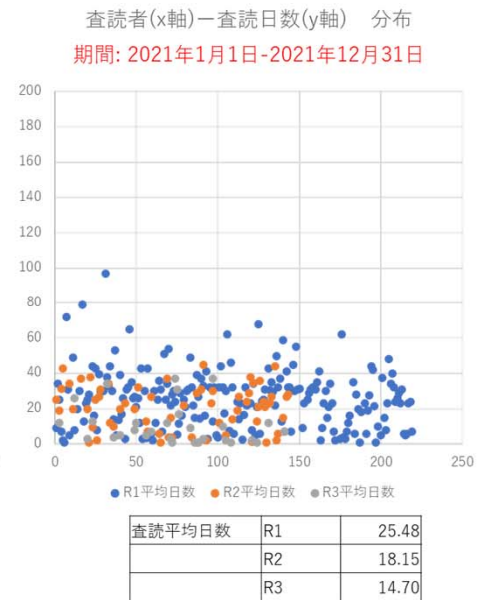
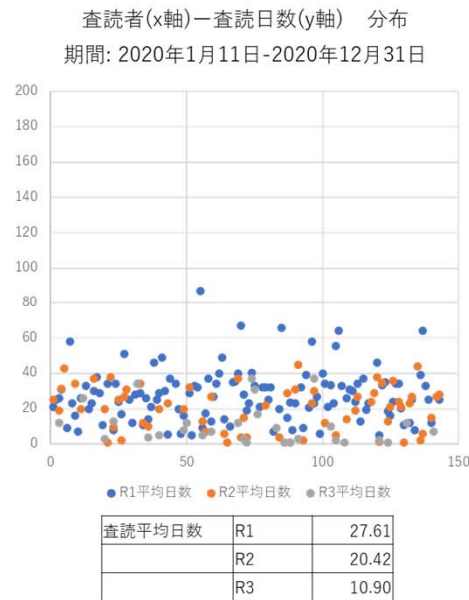
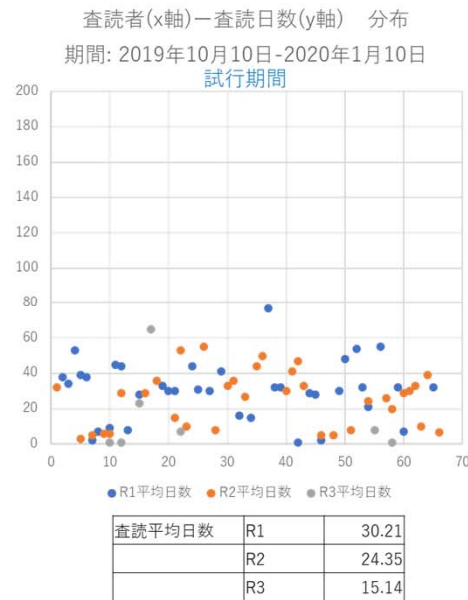
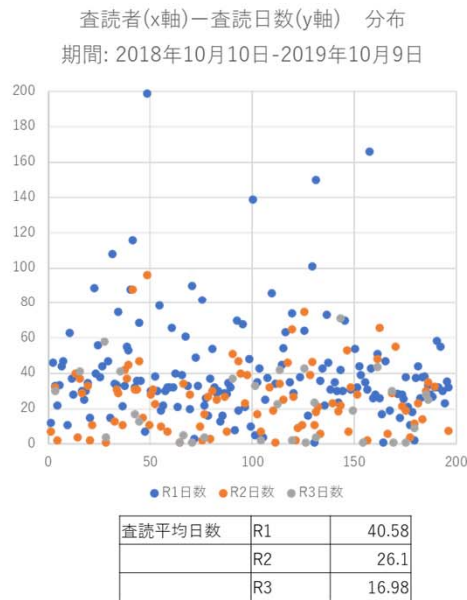


英文論文誌D（論文） 論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]



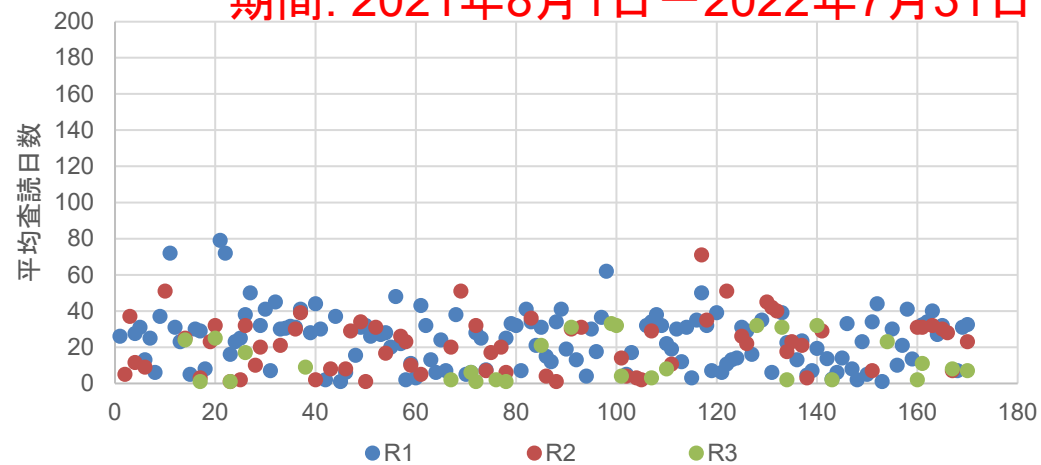
査読日数分布



25 期間 2021/8/1-2022/7/31

査読者(x軸)－査読日数(y軸) 分布

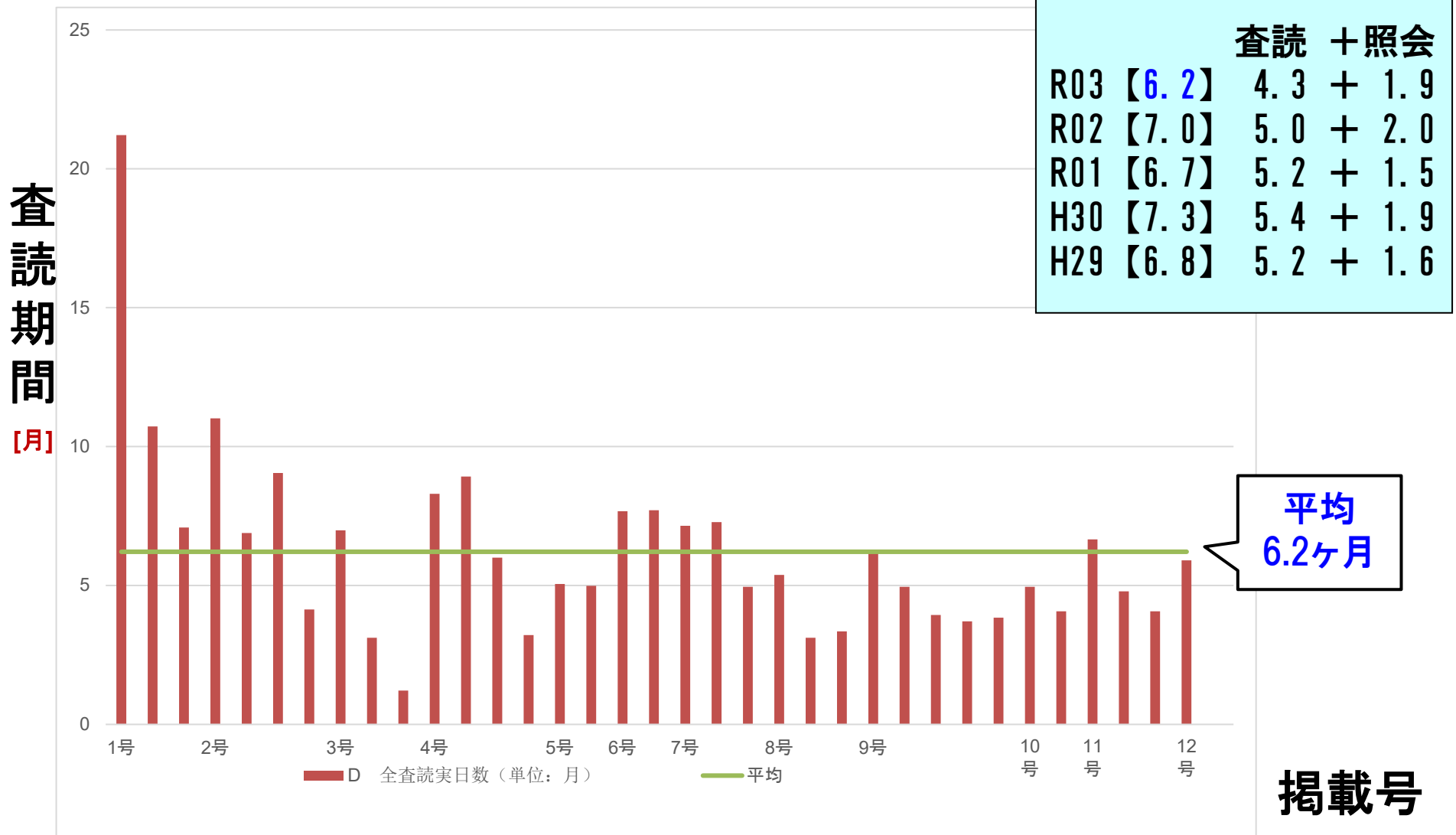
期間: 2021年8月1日－2022年7月31日



| | | |
|--------|----|-------|
| 査読平均日数 | R1 | 23.63 |
| | R2 | 20.99 |
| | R3 | 13.25 |

26

共通英文論文誌（D部門投稿論文） 論文掲載判定までの所要月数





現時点での査読マニュアル

産業応用部門 和文論文誌 編修長
星 伸一 (東京理科大)

- 目的
 - 論文査読の基準を明確にすること。
 - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。
- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

29 部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
 - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
 - 何でも掲載すればよいというのではない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

30 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか1つが認められるか
技術面だけでなく, 考え方, 応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

-
- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
[掲載\(A判定\)](#)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
[条件付き掲載\(照会后掲載\) \(B判定\)](#)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
[照会后判定\(C判定\)](#)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
[返送\(D判定\)](#)
 - 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

32 照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

33 1 回目の査読で A 判定をつける場合 の判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性，創造性，有用性（研究開発レターでは創意性，新規性）のどれが認められるかを（複数でも良い），明確に記載する。

-
- 理由を具体的に，明確に記載する。
 - 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上，新たな論文としての投稿を勧める。
 - 新規性，創造性，有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い，優位性が無い，あるいは，同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが，論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず，新規性，創造性，有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

-
- 掲載決定論文の内容の変更は，原則として誤字，脱字，フォントの不一致など，editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後，最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には，掲載の決定を取り消す場合がある。
 - 査読マニュアルの内容は，常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ <http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/> からリンクできます。

参考：部門ホームページ (<http://www.iee.jp/ias/>)

論文委員意見に対する回答

| | | |
|--------|-------|----------|
| 和文誌編修長 | 星 伸一 | (東京理科大学) |
| 英文誌編修長 | 横山 智紀 | (東京電機大学) |
| D3主査 | 赤津 観 | (横浜国立大学) |

査読について： 5件
ご意見・ご質問を頂戴しました。

ありがとうございました。

R03: 10件, R02: 2件, R01: 5件, H30 : 10件,
H29 : 4件, H28 : 4件, H27 : 10件 H26 : 11件,
H25年 : 12件, H24年 : 1 1 件, H23年 : 3 件

38 【ご意見】 論文査読促進賞について

(1) (当日議題にして頂かなくて結構です) 論文査読促進賞の回答期日は、「初日不算入」の原則にて、「依頼翌日を含めて7日目以前」として頂きたいです。幹事からの査読依頼が夜間の場合、査読者としてはその日の対応が不可となり得るため、「1週間での査読」をお願いしている手前、それは申し訳なく感じます。

A. 。

英文誌で検討。

「産業応用部門英文論文誌論文査読促進賞の選考および副賞配付・確認運営方法申し合わせ」の改訂(表彰委員会・役員会)

39 【ご意見】 研究会特集号論文について

(1) 研究会などの特集号論文で、当日の発表に対する質疑内容を共有いただくことを検討いただけないでしょうか。（査読者が必ずしも当該発表を聴講しているとは限らないため、アップデートされた箇所および経緯を参考にしたい。）

A. 質疑内容や、質疑によってブラッシュアップされた内容を添付資料として提出いただくように、論文募集案内に記載することで対応したいと考えています。

40 【ご意見】 査読レベルの統一化について

(2)査読のレベルの統一化の取り組みが必要(査読コメント例などの共有など)

(3) 標準的な返信文例文があると良いと思います。

A. 査読コメントについて、返送文の書き方などは査読マニュアルにすでに記載されていますが、より活用していただきやすいような査読マニュアルに改訂したいと思います。

41 【ご意見】 判定結果の共有について

(4)査読の判定結果の通知を，著者だけでなく，査読者にも分かる仕組みがあってもよいと感じています。査読の参考になります。

A. 現在の投稿システムに機能が組み込まれておりませんが、希望者に対して、担当幹事からお知らせするようにいたします。査読時に「論文委員会へのコメント欄」に、記載をお願いします。

(5)査読中，他の査読者の回答が見られるようにしてほしいです。

A. 査読中に他の査読者の回答が見られるようにしてしまうと、その内容に引きずられてしまう恐れがありますので、困難です。採否決定後の結果につきましては、上記の対応を考えております。

42 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(1) 査読システムに掲載されている査読フローが古いのではないのでしょうか。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。現在公開されているものは、平成16年6月現在のもので、それが公式な最新版であることを確認しております。

43 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス2) 結果報告後に査読者間で結果・コメントを共有していただくことはできないでしょうか。

他の査読者の方のコメント内容を拝見することは査読者にとっても勉強になり、査読のレベルをあげることに繋がると思います。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。これまでもいただいた要望ですが、現在の投稿システムでは残念ながらその機能に対応できません。

44 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス3) 投稿者の査読結果に対する対応内容を共有いただくことはできないでしょうか。

再投稿時の査読を担当した場合、査読者のコメントと投稿者の対応内容を確認することはできますが、初回の査読のみの対応となった場合、投稿者がどのように査読コメントに対して対応したか、論文出版後に確認してはじめて知ることができます。

（論文の採否結果についても出版後に確認できる状況かと思えます。）対応内容を共有いただくことで、投稿者の論点等より明確となり、査読者のレベルをあげることに繋がると思います。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。これまでもいただいた要望ですが、現在の投稿システムでは残念ながらその機能に対応できません。

45 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス4) 査読システムで、査読受諾前に合計ページ数が確認できるようにしていただきたいです。（作業分量の判断ができるので

- A. 貴重なご意見をありがとうございました。現在の査読システムの軽微な改編で対応可能かを学会事務局に確認いたしましたが、困難とのことでした。暫定的対応としては、担当幹事に査読者からご照会いただくことをお願いできれば、編修長としてありがたいと考えております。

46 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス5) 論文誌への掲載論文の題名，所属，氏名＋概要（数行）のメール（既に題名，所属，氏名は配信されていますが）で連絡いただけるとアクセスしやすいです。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。残念ですが現在の査読システムの軽微な改編で対応可能ではないとのことです。

次期論文投稿（査読）システムにそのような機能を入れるべく要望を申し伝えます。

47 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス6) 査読対象論文の参考文献へのアクセス方法を検討して頂きたい。最良の方法は、著者から提供を受けて、ネット上に画像で表示してもらえれば、著作権も問題とならないのでは無いでしょうか。せめて、電気学会の論文・研究会資料へはアクセスできるようにして欲しいです。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。

査読に必要な論文は事務局経由で著者に照会して取り寄せることが可能です。

48 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(7) 稀に、技術はよくとも文章の質が悪いものがあるが、そういう投稿を抑制できないか。

A. 貴重なご意見をありがとうございます。論文委員会が、論文指導はできないので、これは主として著者側の問題になります。査読委員としては、「産業応用部門誌論文査読マニュアル」の3章の「論文が備えるべき要件」に記載の通り、「論旨が明瞭か。」、「論文の完成度は掲載可能な水準に達しているか。」の項目で、判定していただきますようお願いいたします。

(1) 英文論文の査読に関して、英語表現の問題をどの程度指摘して良いか迷います。論文の英語表現に問題があることが分かっていても、査読者が適切な修正案を必ず提示できるわけではありません。また、英語表現に問題がある論文は、問題がある箇所が膨大であることが多く、査読者がそれらを全て指摘するのは負担が大きいです。査読の前にネイティブチェック等の機会があると望ましいと思います。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。英文のレベルが低い・問題が多い場合は、個々の表現を指摘せず、ネイティブチェックをかけるように、コメントしていただくことでお願いしたいと思います。それを理由として、D判定としていただいても構いません。

投稿時に、ネイティブチェックの証明書を添付している論文もあります。

(2) 英文論文誌の論文テンプレートファイルとの互換性の高い「国際会議用論文テンプレートファイル」を作り、IEEJが著作権を有するときの国際会議（ICEMS、IPEC、LDIA、SAMCONなど、細部は会議毎に変更可）で共通に使えたら、国際会議→JIAへの投稿を進めやすいと思いました。併せて、英文論文誌の論文テンプレートファイルも少し見直してはいかがでしょうか。

- a) 数式番号は(1)、文献番号は[1]に分ける（視覚的に見やすいので）
- b) テンプレート内の本文は、書式の説明や好ましい書き方といった意味ある内容を書く
- c) 和文フォントの使用を避ける

A. 貴重なご意見をありがとうございました。共通英文誌のフォーマットでもあるので、調整が必要です。各国際会議の論文委員会と情報共有するようにしていきます。

(3) 共通英文誌とD部門英文誌の2つありますが、D部門英文誌の方に誘導することはできないでしょうか。査読が回ってきて、正直なところ共通英文誌の査読はモチベーションが上がらないです。

A. どちらに投稿するかは、著者の自由ですが、D部門分野の論文においては、事務局の方で、日本人投稿者にはJIAの方への投稿を打診しています。
ただし共通英文論文はIFを持っていますので、どうしても海外からの論文は共通英文誌に投稿される比率が高いです。英文論文誌の戦略委員会でも、海外著者の比率を高める施策を進めている状況です。

和文論文誌・英文論文誌ともに
魅力のある論文誌となりますよう
編修長・主査・副主査・幹事一同努めてまいります
論文委員の皆様方も引き続きご協力をお願いします。

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました